

【平成31年研究発表会発表記録】

食べて祀って～流域に残る祭りとそのお供え物の意味～

坂本桃子^リ*

I はちりゅういずむ, 〒867-0284 水俣市越小場 1342

① きゅうり祭り

八代市坂本町百済来上の小川内地区において、毎年6月11日に開催される。この地区の公民館に住民が集まり、スライスしたキュウリを自家製のんにく味噌につけて、ただひたすら食べる(図1)。この祭りがいつから始まり、なぜキュウリを食べるのか、その謂われについては、住民の誰かが分からない。「川の神に関連する祭り」ではないか?という話も聞いた。



図1 キュウリ祭りでひたすらキュウリを食べる!

② 木々子の「山の神祭り」

八代市坂本町仲谷の木々子地区において、旧暦9月29日に開催される。集落の山の神が祀ってある山中に住民が集まり、炊きたての小豆ご飯を、薄く切った平板に2膳ずつ載せる(図2)。合計75膳分用意し、山の神へお供えする。他にも酒、野菜、塩、ボラ(出生魚)などを一緒に供え、神事の後に参加者全員でいただく。75膳の小豆ご飯の意味は、山の神さまの数(木々子では山に名前がある)ではないかという説もある。



図2 「山の神祭り」で振る舞われる小豆ご飯

古くから山の神様は海のものが好きだといわれており、坂本町内の他地区の「山の神祭り」でも、必ず魚(縁起が良いので出生魚が多い)がお供えされる。木々子地区ではお供えしていたボラを焼いていただくが、これを食べると1年間無病息災といわれている。

③ 総供養

八代市坂本町中津道の上鎌瀬地区において、毎年1月5日に開催される。早朝より球磨川の河原で石を365個(うるう年には366個)拾う。その石を地区の公民館に持ちかえり、すべての石に「南無阿弥陀仏」と書く(図3)。午後より住

*Corresponding author: e-mail: momoiro.asr@gmail.com

民は餅を重箱に入れて公民館に持ち寄り，地元のお寺の住職がお経をあげたら，再び365個の石を球磨川へ運び，持ち寄った餅とともに球磨川へ投げる。この総供養は，かつてこの地域でおこった河童の祟りを鎮めるために始まったといわれている。

今回紹介した祭りはごく一部で，坂本町にはまだまだ独特で不思議な祭りがたくさんあります。私はお供えものの「食」に注目して取材を行いましたが，「集落のみなさんが由来も意味も分からないけど，しっかり昔からの伝統を何の疑問も持たずに淡々と続けている。」ということに驚きました。坂本では今でも川の神や山の神信仰がしっかりと根付いており，人と自然の距離が近いことを知らされました。



図3 「南無阿弥陀仏」と書かれた石